長野・東條（ひがしじょう）遺跡

1　所在地　長野県千曲市大字八幡字東條
2　調査期間　二〇〇七年（平19）四月～一一月
3　発掘機関　長野県埋蔵文化財センター
4　調査担当者　岡村秀雄・小林秀行・市川桂子
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　古墳時代後期～戦国時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

東條遺跡は、古墳時代後期から戦国時代にかけての複合遺跡で、姨捨土石流台地から連なる押し出し地形の北東斜面末端部に立地する。標高は三六六～三八二m。遺跡の西に接して姨捨山に向かう「一本松街道」と呼ばれる市道があり、古代からの道と推定されている。

（長　野）

主な遺構は、古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居と掘立柱建物、鎌倉時代後期から戦国時代の礎石建物・掘立柱建物・井戸・溝及び四方の壁に二〇～三〇cmの礫をめぐらせた竪穴状遺構などがある。中世の遺構・遺物は「一本松街道」との関連があると考えられる。

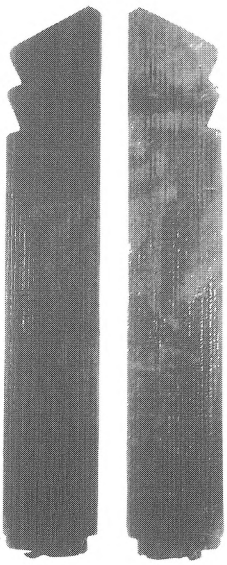
木簡は石組の井戸から一点、井戸底から三〇cmほど上で出土した。共伴する遺物から、木簡の年代は一五世紀頃と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　(146)×(25)×3　061

・「（バン）迷故三×
・「　南　無×

左半分と下部を欠損するが、表面二段目の切り込みに板碑にみられる条線が墨書される。文字は浮き上がりで残る。裏面の「南無」は表面と比べて不明瞭。



（岡村秀雄）